

## 大石田中の生徒が町の特産品を使った調理実習を体験

町の食文化への理解を深めてもらおうと、町特産品を使った郷土料理を作る調理実習が、10月5日(木)に大石田中学校で行われ、同校1年生41人が参加しました。これは、町食生活改善推進員連絡協議会(長沢依子会長)の協力で実施されたものです。同校ではコロナ禍の影響で調理実習を自粛していたこともあり、約4年ぶりの調理実習となりました。メニューは、とろろ八杯、かもち、かぼちゃの煮物の3品で、それぞれに町特産品である自然薯、ソバ、次年子かぼちゃを使用しました。

生徒たちは、同協議会のメンバーから食材の下ごしらえや味付けの仕方を教わりながら、楽しそうに調理を行っていました。

調理実習に参加した青木久土さんは、「初めてかもちを作りました。今まで食べたことがないので、どんな味がするのか楽しみです」と話していました。



## 大石田保育園の園児が西アフリカ伝統の打楽器「ジャンベ」を体験

大石田保育園の園児が、10月10日(火)に西アフリカ伝統の打楽器である「ジャンベ」を体験しました。この日、保育園を訪れたのは、川西町在住のジャンベ奏者堀米輝樹さんと同じくジャンベ奏者でアフリカ出身のソロケイタさん、そして地域おこし協力隊の久保田舞隊員の3人です。久保田隊員が、知り合いだった堀米さんに協力をお願いして、開催が実現しました。ジャンベとは西アフリカ伝統の打楽器で、円柱状の切り抜かれた木材に羊の皮が張られているものです。直径15センチ程度の小さなものから、50センチ程度の



大きなものまで、大小様々なものがあります。

園児たちは2人に叩き方を教わった後、バラクランジャンと呼ばれるリズムに合わせてジャンベを叩いたり、リズムに合わせて楽しそうに体を動かしていました。

参加したさくら組の鈴木こうしん君は、「前に叩いた太鼓と音が違いました。楽しかったです」と話していました。



## 全国自作視聴覚教材コンクールで南小の作品が入選

全国の優れた自作視聴覚教材を表彰する全国自作視聴覚教材コンクールで、南小の令和3年度4年生が制作した映像教材「大石田笑顔満開プロジェクト」が小学校部門の入選作品に選ばれました。これを受けて、南小の鈴木郁子校長などが10月6日(金)に役場を訪れ、本多教育長に受賞を報告しました。

この作品は、大石田からたの中からいくつかの読み札を選び、そこに書かれた内容を児童が現地に行き確かめ、報告する動画となっています。審査員からは、「大石田町の自然や歴史に触れ合うことで、子どもたちが町の良さについて再認識すると思う」という評価をいただきました。大変おめでとうございます。



## 山形県老人クラブ連合会表彰町から2名・1団体が表彰を受ける

このたび、下記の皆さんが山形県老人クラブ連合会表彰を受けました。これは、地区における老人クラブ活動の発展に寄与した功績等に対して表彰されたものです。大変おめでとうございます。

### ◆老人クラブ育成指導功労表彰

高橋 進さん (来迎寺)

本間 正さん (鷹 巣)

### ◆優良老人クラブ表彰

駒籠老人クラブ



## 交通事故の未然防止呼びかける北村山地区交通安全キャラバン

交通事故の未然防止を推進しようと、交通安全協会や警察、町などで構成される交通安全キャラバン隊の啓発活動が、9月29日(金)にあつたまりランド深堀で行われました。

キャラバンでは、尾花沢警察署の職員から町内の交通事故の発生状況が説明されたほか、北村山地区交通安全対策協議会長のメッセージの伝達や啓発物品の贈呈が行われました。

秋になると日没が早くなることから、毎年、夕暮れ時や夜間にかけて交通事故が多発しています。町民みんなで交通ルールを守って、交通事故ゼロを目指しましょう。



## 実りの秋迎える児童が稲刈り作業を体験

町内小学校の5年生児童が昔ながらの稲刈り作業を体験しました。各小学校では農作業の大変さや収穫の喜びを味わってもらおうと毎年春に田植え体験、秋に稲刈り体験を地域の方などにご協力いただき実施しています。

そのうち、南小では10月3日(火)に行われ、児童たちは、慣れない鎌を手に、黄金色に実った稲を丁寧に刈り取り、その後、稲架掛けを行いました。

参加した南小の高橋来輝さんは「難しかったけど、みんなで協力して楽しく稲刈りができました」と話していました。